

スマトラ沖地震の津波被害とバンダアチェの都市構造

Tsunami Damage and Urban Structure in Banda Aceh

田中 重好[1]; 木村 玲欧[2]; Besana Glenda[3]; MULANA Farid[4]; 安藤 雅孝[5]; 木股 文昭[6]; Suhirman . [7]
Shigeyoshi Tanaka[1]; Reo Kimura[2]; Glenda Besana[3]; Farid MULANA[4]; Masataka Ando[5]; Fumiaki Kimata[6]; .
Suhirman[7]

[1] 名大・環境・社会環境; [2] 名大・災害対策室; [3] 名大・地震火山・防災センター; [4] 豊橋技科大・工研;
[5] 名大・地震火山センター; [6] 名大・院環境・地震火山センター; [7] バンドン工科大学

[1] Environmental Studies, Nagoya Univ; [2] Disaster Management Office, Nagoya Univ.; [3] RCSVHM, Nagoya Univ; [4]
Graduate school of Technology, Toyohashi University of Technology; [5] RCSV, Science, Nagoya Univ.; [6] Res. Center Seis.
& Volcanology, Graduate school of Environ., Nagoya Univ.; [7] ITB

スマトラ沖地震の発生によって、アチェ州の中心都市バンダアチェは、大きな津波の被害を被った。近年の津波被害の中でも今回の津波被害において特筆すべき点は、都市の中心地域にまで津波被害が及んだことである。

この点を確認するために、バンダアチェを襲った津波被害を、都市構造に照らして確認する。

まず、バンダアチェの都市構造を描くために、この都市で生まれ育った学者にインタビューして、都市の認知地図を作成した。この都市の認知地図に、津波被害を重ねると、次のことが判明した。

1)バンダアチェ王国時代からの歴史を持つ、この都市の中心部まで津波が到達したこと。したがって、今回の津波は、この都市の中心部まで侵入した。

2)しかしながら、オフィス地域は、津波被害の外周部に位置している

3)津波被害地域は居住地域を広範に含んでいる。

4)都市の開発の歴史から見ると、バンダアチェ旧市街地と臨海漁業集落との中間地域に、新しい市街地発展しているが、その新市街地も大きな被害を被った。

5)ただし、新市街地の中でも、南部の旧市街地の外周部に発展した地域は津波被害を被っていない。

6)住宅の階層構成を見ると、低階層住民の居住地と上げられた地域はすべて津波被害を被っているが、高階層地域については、半分は津波被害を免れている。

以上のように、津波の被害の社会的様相をまとめることができる。